

美術館コレクション検索はどこへ向かうか

——日本のプラットフォームの現状と将来像——

日本の美術館のコレクションはいかにして包括的検索が可能になるか。これは長くアート・ドキュメンテーション学会で問われてきたテーマである。これに関連し、最近2つの取組みが始まった。ひとつは今年3月に試行版が公開された文化庁アートプラットフォーム事業の「全国美術館収蔵品サーチ」である。もうひとつは昨年7月、一般社団法人全国美術館会議が「ジャパンサーチ」の美術分野のつなぎ役として名乗りを上げたことである。いずれも複数館のデータを集約するアグリゲーターの存在が鍵を握る。

新登場のこのプロジェクトは、既存の文化庁「文化遺産オンライン」やGoogle「Google Arts & Culture」、そのほか類似のプロジェクトとどのように違うのか。各美術館は自館コレクションの可視化のためにどのアグリゲーターと連携していけばよいか。今後、日本のパブリック・コレクションは総体としてどのように検索可能になるのか。各アグリゲーターの現状と課題から日本の美術館コレクション検索の将来像を探る。

共催：アート・ドキュメンテーション学会／立命館大学アート・リサーチセンター 文部科学省 国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」(ARC-iJAC)

日程：2021年6月19日(土) 13:00～16:30

会場：オンライン開催

申込み方法：本学会サイトの申込みフォームからお申し込みください(5月中旬頃に開設予定)

参加費：会員、非会員とも無料

プログラム(予定)：

13:00 開会挨拶 赤間亮(アート・ドキュメンテーション学会会長／立命館大学)

13:10 シンポジウム趣旨説明 川口雅子(国立西洋美術館)

13:25 [講演]

栗田秀法(名古屋大学)

「美術館コレクション情報管理と共通検索可能なプラットフォームへの期待(仮題)」

14:00 [事例1]

成相肇(東京国立近代美術館)／手銭和加子(文化庁アートプラットフォーム事業事務局)

「文化庁アートプラットフォーム事業『全国美術館収蔵品サーチ』」

14:30 [事例2]

鴨木年泰(東京富士美術館)／徳原直子(国立国会図書館)

「ジャパンサーチのつなぎ役としての全国美術館会議の役割」

15:00～15:20 休憩

15:20 質疑応答・全体討論

コメンテーター 副田一穂(愛知県美術館)／石黒礼子(金沢21世紀美術館)

16:20～16:30 総括・まとめ